

## 1090 | 絵画表現 II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、金子善明講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、佐々木敏講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、松村繁講師、山本明比古講師、吉川民仁講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

ここでは、造形要素としての明暗と色彩の働きをテーマとして学ぶ。対象として設定した空間には、光による明暗の変化とともに、モチーフ個々の形態や色彩が生み出すフォルムなどが、相互に関わり合いながら存在している。また、モチーフだけでなくモチーフと床や壁との関係や、モチーフ相互を取り巻く空間などにも注意を払うことが必要となる。これら様々な造形要素を自分が設定した空間から感じ取り、画面上で用いられる色彩と形態の関係を、色の使い方（絵具どうしの混色や画面上での配色など）に留意して描きながら、造形的な絵画空間を構築していく。

通信授業、面接授業ともに明暗の構成と色彩の構成をテーマとして制作する。

## 課題の概要

## ○通信課題授業「明暗と色彩」

1-1 卓上の静物をモチーフに、光によって生ずる陰影の差と、モチーフ個々の色彩の明度差を同時に比較し、明暗による構成を主としてデッサンする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを明暗と色彩の関係を意識して、水彩または油彩で制作する。

## ○面接授業課題「造形要素としての明暗と色彩の働き」

1-1 人物（コスチューム）を配置し、色彩の構成を意識して、水彩または油彩で制作する。B2 画用紙または 20 号キャンバス。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具、油彩等。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画表現 I・II 平成 29 年度』の「絵画表現 II」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』編の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（彩画）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「絵画 I・II」または「日本画 I・II」または「版画 I・II」の単位を修得していること（油絵学科 3 年次編入学生を除く）。

[備 考] 油絵学科各コース 3 年次必修科目。

「絵画表現 I」、「絵画表現 II」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講が出来ない場合は、受講順序は問わない。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版社 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版社 2002 年）

学習指導書：『絵画表現 I・II 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）